



司会者 正木啓子さん  
(11月18日土木の日生まれ)  
●大阪府土木事務所

- 参加者
- 木元敦子さん  
●設計会社
  - 窪田ユキさん  
●建設会社工事事務所
  - 富田陽子さん  
●近畿地方建設局
  - 西田恭子さん  
●大阪市建設局
  - 原口華世子さん  
●建設会社土木工事計画部
  - 古谷祥恵さん  
●建設会社工事事務所



## 夢がかなってシビル・エンジニアリング界へ モノ創りのおもしろさ、“社会が動いている”現場の大きさを実感しています。

土木といえば、土や水など直接自然環境と関わる現場仕事を抜きにしては語れない仕事だけに、“男の職場”の色彩がありました。しかし、実際には都市や街、あるいは新しい環境を創出するというダイナミックな仕事の大きさに魅せられ、そして、実際にシビル・エンジニアリング業界で活躍している女性技術者たちがいます。そこで、彼女たちにその仕事の醍醐味を大いに語っていただきました。

### 【近況報告】

司会●きょうは建設業界の一端で活躍されている女性技術者の方に集まっていたので、同じ業界に働くものとして大いに語ってくださいますことなので、始まる前から期待でワクワクしています。実は4年前にこのしるで「関西の土木工学専攻の女子学生大いに語る」という企画がありまして、司会をさせていただいたのですが、その時に参加していただいた方にもきょうは4名来ていただき、皆さんが社会に出てどのように成長されたかその辺のお話を聞けるだ

ろうととても楽しみにしています。

はじめに自己紹介を兼ねまして現況報告といいますが仕事の内容などお聞きしたいと思います。まず私からさせていただきますと、大阪府の土木事務所におまして所員が大体140名ほどおられます。その工務課で水防とか設計審査などをやっています。夜の水防当番などもありまして、実は一昨日も徹夜なんです。災害時など無線が入ってきて指示を出すなど直接現場に出るというよりも事務所の中でワーワーやっております。

ということで、前回にも参加していただいた方から順にお聞きしましょうか。

窪田●私は昨年建設会社に入社しまして2年目になります。最近転勤になりまして東西線三条工事事務所というところで、地下鉄の駅を作っています。まだここにきて新しいのですが、工務の方で工事の計画に関わったりすると思います。西田●私は今年卒業しまして大阪市に入りました。交通安全施設課というところで歩道の設置・設計をしています。最近流行っているコミュニティ道路というクルマが入りにくいギザギザになった歩行者優先道路を作っています。今3本目くらいなんですけど、設計ばかりしている



木元敦子さん

と現場の状況がわかりにくいのでこれでいいのかと不安でいっぱいです。

古谷●昨年、建設会社に入社しまして、入社当初は技術部で報告書などを書いてたんですけど、今は第二阪奈中央立坑作業所という土木でも珍しい工事の現場にいます。ずっと現場に行きたいと希望し続けましてようやく念願叶って配属されたんです。

木元●私は設計会社で下水道の計画をやっています。事業自体が10年くらい先の話なので現場

はあまり関係ないんですが、今、その土地がどうなっているか調べるために自転車で走り回ったりはしてますけれど。(笑)

司会●今までの方が4年前に登場していただいた当時土木を専攻していた学生さんで現在も土木を仕事に選んだ方たちなんですけど、きょう初めて来ていただいた原口さんと富田さんのお仕事はどういう内容ですか。

原口●私は平成3年に大学を卒業しまして建設会社に入社しました。今やっている仕事はCADを使って図面を書く以外に、技術的にも考えていこうということで、鉄筋の曲げ加工についていろいろやっています。

富田●私は仕事に就いて6年目になります。砂防で建設者に入りまして、土砂による災害を対象にしています。近畿地方では六甲山系とか大和川の地滑り対策に関わっています。

### 【印象の変化】

司会●皆さん、実際に建設業界に入ってみて学生時代にもっていた印象がどう変わりましたか？

西田●学生の時、学外実習で大阪市計画局で1ヶ月ほどお世話になったことがあって、役所なら転勤もないし長く働けるかなと就職を決めたんですけど、実際に働いてみると大学時代に学んだこととあまり関係がなくて戸惑いばかり。歩道の緑石と境界石の違いも知らなかったこととか…。これからだんだん夢と現実の違いがわ

かってくるのかなと覚悟を決めますけれど。古谷●私もあと2〜3年すればいろいろ見えてくるのかなと思っています。私はとにかくモノを作ってゆくプロセスが見たくて、それなら実際にモノを作っている建設会社に就職しよう。機械が動いているとか人が動いているとかそういう変化を見るのが楽しくて、これって社会が動いているということですよね。だから今だに現場に行くとうれしくてうれしくて、遠足気分で行くと先輩には叱られるのですが…。(笑)

窪田●私は男のような性格なので、男性と同じように仕事をしよう、それで土木はキタナイというイメージを打破してやろうと思って建設会社に入ったのですが、現場に行ったら手は真っ黒になるしそんなこと言われてられない世界！やっぱり女性にはしんどいなと思ったこともありまして、でも最近慣れてきまして(笑)汗を流すことはすばらしい、現場に出れてよかったなあほんとに思っています。

木元●土木だからモノを作るための設計だなどと短絡的に考えていたのですが、最近人間のためになるにはどのように設計したらいいのか、人を納得させる設計とは、というふうなイメージになってきました。

原口●私にもモノを作るのはおもしろいだろうというのが動機としてありまして、大学ではコンクリートの研究をしてたんですけど、コンクリートを練ったりですね、それこそ学校中を作業

服姿で徘徊してました。学年で女子が一人だったもんですからトビ職の店で作業服を調達したり安全靴のサイズがなくて先生もいないすかね…と心配してくれたりとかいろいろありましたけど、イヤな思いをするかもしれないけれどやっぱり生産現場をもっている会社に入りたいと今の会社に入社しました。1年ちょっと現場にいまして、現場ってコワイナァ、みんな真剣なんだというのが実感でした。機械化施工も進んでいますが千づくり施工の部分も多いですから、そうなるって体力的な差もあるして泣きそうになったこともありましたが、今でも現場の人が声をかけてくれたりとか可愛がってくれるのでうれしいですよ。



窪田ユキさん



### ひとりの人間として、生活者の視点で環境づくりに積極的に関わること—— そこからいい仕事ができるんじゃないかな。

#### 【女性現場監督】

司会●手作り施工って本当ですよ。例えば、コンクリートの表面が硬面仕上げとあってあんまりきれいになりすぎると駄目な時もあるんですよ。そういう時適度な摩擦があるように最後の仕上げは人間の手です。人間の手には優るものはないですよ。機械は100%やりきってしまうから。

で、さっき原口さんもおっしゃってましたが、やはり男性とは体力的な差というのがあるのも事実なんです。そのことに関して周囲の目が気になることってありますか？

吉谷●何の仕事ですか？と聞かれて「現場監督やっています」と答えるとやはりみんなびっくりします。自分では3Kなんて全然意識していな

いで作業着を着て嬉しがってますから、家族は認めてるみたい。(笑)

富田●こちらは仕事に関しては男性と同様に命懸けで働いているつもりでも、現場関係者の中には「ちゃらちゃら女の子が…」という目も少なくはないです。それに建設会社というところは人づきあいが多くてお酒の席なんかでも上司には「女の子を預かっているの」という意識があるみたいなんです。大事にされてるというのはいいんですけど、まだまだ肩を並べてというのは無理なのかなって思っています。

司会●私はたまに飲める方なんで(全員爆笑)仕事を終わったあとで皆で一緒に行ったりは結構します。本音を言い合うというか、半分仕事みたいなものです。まあ、まわりに気をつかわれるというのは逆に重荷の場合もありますよね。そろそろ親ばなれしたいって感じかな。

富田●ええ、そのへんのところをわかってほしいです。

#### 【技術者としての夢】

司会●仕事に対する夢を伺いたいと思います。別に挙げ足を取ろうというわけではないんですけど(笑)、西田さんは4年前、学生さんの時のお話では、将来、子供に、あれはお母さんが作ったものよと自慢できるものを作りたいとおっしゃってましたがどうですか？作っていますか？

西田●初めて設計したものがそろそろ工事に入るんですね。それで、インターロッキングプロ

ック、要するにレンガみたいなものなんです。その裏にサインペンで名前を書いておこうかと思っています。歩道なので将来、撤去されることもないだろうと。(笑)今できることはそれくらいかな。将来は、さまざまな職種の人たちと知り合いになって幅広い世界を見てゆきたいと思っています。



西田 美希さん

吉谷●私は4年前の時には、環境問題に取り組みたいって言ってしまったんですけど(笑)、今後はたとえばゴルフ場の計画であるとか環境に関わる仕事に携わることもあると思うので、開発する側の者として勉強してゆきたいです。

富田●環境問題というのは主観的な論議である場合もあると思います。砂防ダムでいえば、緑



の中にコンクリートの塊が出てくるわけですから環境破壊だととらえられることはありますが、ダムができることによって山が安定してかえって緑が増えるということもあるわけです。

司会●一番大切なのは防災であって、何か事があった時に安全にということですから、日常安全な時に見ただけで一面的にとらえ方では解決できない問題ですよ。

富田●そういった意味でも土木というのは対象物があまりに大きいですから、できるだけ現場に出て、自分の目で見て、手で触って、考えて、モノを作るとかをやりたいと思っています。

司会●夢ということでは木元さんは一つのことじくりに取り組みたいとおっしゃってましたか。

木元●会社が氷中心のコンサルタントですから、専門的なことを突っ込んでやってゆけるということでは正解だったかな。でも仕事に関しては視野が広くなければと思うので、下水には直接関係のない、たとえば見学会などがあればどんどん行かしてもらっています。

#### 【生活者の視点】

原口●ちょっとはずれるかもしれませんが、建設業界で働く「女性」だからという今回の企画みたいなネタはもう古いんじゃないかなあと思います。

司会●そうそうそこをもっと大きな声で言きましょうよ。

原口●私たちは高速道路を作ったり橋を作った



原口 亜世子さん

りしますけれども、作るのは土木屋なんだけど、実際にそれを使うのは男性、女性、老人、子供なんだから、今まで女性がいなかったのがおかしかったくらいで、この業界で女性にこだわるのはもうそろそろいいんじゃないかな。技術者として役に立つものを作ってるんだという地に足のついたところでやってゆきたいですよ。

司会●現に「土木技術者女性の会」に入っている女性だけでも全国で140人は超えているし、実際はその何倍もの女性が土木系の職場で働いているわけですからね。

富田●たとえば視覚障害者のための点字ボタンを取り入れた家電製品、流し台の深いシンクとか話題になった製品がありましたけれども、従来のものがなぜ扱いにくいのか、また昼間、子供を連れて街を歩いていて、そこで、お空がきれいねと見上げた時に視界を遮るモノがあったとか…。新しいモノを考えるというのはそうい

う生活の中での発見からくるのではないかなと思うのです。

司会●使い手の立場とか生活者の立場でモノを作ることが大切ですよ。そこでは男性、女性ということとは関係なく、あくまでも生活者という目で積極的にモノを作っていくということでしょうか。そういう立場で今後ともお互いにいい仕事に励みたいものです。きょうはほんとうに充実したお話をどうもありがとうございました。



古谷 祥恵さん



富田 陽子さん